

注意点1



理論

ペンタを使用する
応用スウィープ・フレーズ

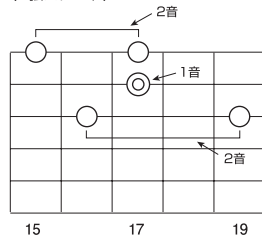
実は、このメイン・フレーズはオーソドックスなトライアドではなく、Eマイナー・ペンタによって構成している。この変則的なスウィープ・フレーズはもともとフランク・キャンバレ【註】が行っていたもので、おそらくジョン・ペトルーシも彼のプレイから学んだのではないと思う。ポジションは1弦スタートも2弦スタートも同じで、スタート弦が2音、その次の弦が1音、最後の弦が2音という形になる（図1）。実際の演奏時には、スタートした弦で1音弾いて、そのままスウィープの斜め移動で3音を鳴らし、到達した弦でもう1音弾くというイメージを持つと良いだろう。複雑そうに見えるが、ポジションはシンプルなので、頭と指にしっかり叩き込んでみてほしい。

図1 ペンタを使用した応用スウィープ・ポジション

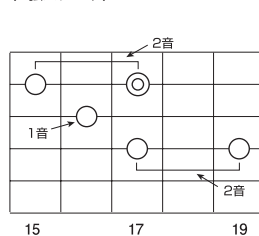
◎トニック=E音

・メイン・フレーズ1小節目

(1弦スタート)



(2弦スタート)



Eマイナー・ペンタの変則ポジションになっている。

注意点2



右手

スウィープのみの練習はNG!
切り返しとセットで弾こう

このメイン・フレーズを演奏する際には、スウィープ後のピッキングの切り返しがポイントになる。1小節目1&2拍目を例に挙げて解説すると（写真①～④）、1弦からアップ・スウィープを弾いて3弦に到達したら、すぐにピッキングの向きを切り返して再び3弦をダウンで弾こう（ダウン・スウィープの場合は、瞬時にアップに切り返して1弦を弾く）。このピッキングの切り返しが遅れてしまうと、フレーズの流れが崩れるので注意してほしい。特にビギナーは、このようなスウィープ・フレーズではスウィープ箇所のみを重点的に練習しがちになるので、スウィープとピッキングの切り返しをセットで練習することが大切だ。



1小節目1拍目。1弦15fをアップで弾き……



そのまま2弦をアップ・スウィープ。



さらに3弦をアップ・スウィープしたら……



ピッキングをすぐに切り返して、3弦をダウンで弾こう!

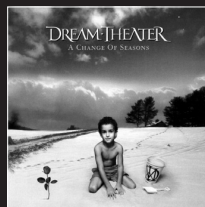
～コラム24～

教官の戯れ言

ジョン・ペトルーシと言ったら、やはりプログレとメタルが融合したギター・ヒーローになるだろう。スティーヴ・モーズを筆頭に、スティーヴ・ハウやアレックス・ライフソンなどのプログレ系、さらにスティーヴ・ヴァイやメタリカなど、彼のルーツとなるギタリストはかなりの多岐に渡っている。そういった数多くのスタイルをブレンドして、ドリーム・シアターにおける圧倒的な超絶ギターへと昇華させたところに、彼のセンスの良さを感じ取ることができるだろう。現在でも毎日相当練習を行なっているようで、常に大きな探求心を持ってギターに向かっていく姿勢も見習いたいところだ。

著者・小林信一、かく語りき
ジョン・ペトルーシ編ドリーム・シアター
『イメージズ・アンド・ワーズ』

緻密に構築した楽曲と多彩なサウンドを聴かせるプログレ・メタルの名作。ペトルーシのハイ・センスなギターも満載だ。

ドリーム・シアター
『ア・チェンジ・オブ・シーズンズ』

20分以上にも及ぶ大作を収録した強力作。7弦ギターを駆使した、ヘヴィでありながらも表現力豊かなプレイは必聴!

【フランク・キャンバレ】スウィープ（エコノミー）・ピッキングの元祖で、ポール・ギルバートなどの多くの超絶系ギタリストに多大な影響を与えた。ソロはもちろんのこと、チック・コリアのサポートとしても活躍している。